

【資料】

平成27年度 東北育種基本区特定母樹等普及促進会議および
平成27年度 林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会

黒沼 幸樹^{*1}

9月10日、森林総合研究所東北支所において平成27年度東北育種基本区特定母樹等普及促進会議（以下、特定母樹等普及促進会議という）及び平成27年度林業研究・技術開発推進東北ブロック会議育種分科会（以下、育種分科会という）が開催された。特定母樹等普及促進会議とは今年度から新たに設置された会議で、特定母樹の開発や性能を情報提供とともに、取り扱いや普及について議論されている。育種分科会は、東北育種基本区（以下、当基本区という）における林木育種推進計画の進捗状況の報告等を行い、育種種苗の開発・普及の推進を目的に開催している。今年度は林野庁、当基本区の関係機関から37名が出席した。以下に会議の概略を報告する。

特定母樹等普及促進会議

会議では、先述のとおり特定母樹について議論された。平成25年5月に一部改正された間伐特別措置法^{*1}では、農林水産大臣の示す基準をクリアした育種種苗を「特定母樹」として指定するとされており、これまで公的機関のみで行っていた育種種苗の増殖について特定母樹に限り民間事業者等でも行えるとされており、この増殖に対する支援措置も講じるとされている。会議では、全育種基本区における特定母樹の指定状況や特定母樹の増殖に参入した民間事業者等の状況、関東育種基本区で開催された特定母樹等普及促進会議の概要等について説明があった。

育種分科会

(1) 林野庁・林木育種センターからの説明

林野庁からは各種補助事業について、林木育種センターからはスギ雪害抵抗性第二世代品種の開発及び同品種からの特定母樹申請等について説明があった。

(2) 当基本区における林木育種事業の推進について

東北育種場（以下、当場という）から以下の報告を行った。

- ①スギ・アカマツ第二世代精英樹の選抜について、スギ第二世代精英樹の候補木を353個体選抜した。今後は選抜したクローン苗の諸特性の評価に取り組む。アカマツでは、成長が良くマツノザイセンチュウに抵抗性を持つ次世代品種開発のため、60個体の候補木からクローン苗を増殖しマツノザイセンチュウ接種検定を行う予定である。
- ②スギ雪害抵抗性品種について、当基本区の西部育種区各県においてスギ雪害抵抗性品種で構成されたミニチュア採種園の造成（予定舎）が進んでいる。当場では、雪害抵抗性第二世代品種の開発に取り組んでいる。
- ③当基本区各県及び当場における昨年度のマツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選抜及び接種検定について、各県で計56本の抵抗性クロマツ候補木を選抜した。接種検定の実施状況では、アカマツ13クローン、クロマツ48クローンについて二次検定を実施し、このうちアカマツ1クローン、クロマツ7クローンがマツノザイセンチュウ抵抗性品種として認定された。
- ④各機関に対する原種配布計画について、特定母樹を含めた原種配布は各県から提出される種苗配布要望計画に基づき計画的な配布を行えるよう生産に努める。
- ⑤各県の通常・ミニチュアタイプの採種園等の造成について、これまでに開発した各種品種等が導入されており、今後も優良種苗生産に向け造成・改良を進めていく。
- ⑥林木遺伝資源の収集・保存は概ね計画通りに事業を進めている。林木遺伝子銀行110番については、昨年度までに計21件が当事業への申し込み者に返されている。

^{*}E-mail: kuronuma@affrc.go.jp

¹くろぬまこうき 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

(3) 各機関からの提案・要望事項について

東北森林管理局から各県に対し花粉症対策品種の増産について要望があった。これに対し各県からは、花粉症対策品種の採種圃園の造成状況や計画について説明があった。需要が増加しているカラマツ種苗について、岩手県からカラマツ第二世代精英樹の選抜や着花促進技術開発の推進等について要望があった。これに対し林木育種センターから、カラマツ種苗の安定供給のため、

全国的に着花促進技術の開発等に取り組んでいくとともに第二世代精英樹の候補木選抜を進めていく、と回答があった。

注：

*¹ 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（平成20年法律第32号）。